

「お祥月参りのすすめ」

一年に一度、故人が亡くなられた日を祥月命日しょうつきめいじちといいます。以前は毎月のご命日にお伺いする「月参り」をされるご家庭も三割ぐらいありましたが、最近では共働きも多く、また毎月は大変ということから殆どなくなりました。

その結果、今ではお盆の棚経たなつねぐらいしか、皆様のお宅にお伺いすることもなくなりましたが、棚経はどうしても時間的制約があり、碌にお話しをすることもできません。

勿論、お寺の運営にご協力頂きたいということもありますが、お祥月ならば時間もとれるので、ゆっくりと皆様のお話をお伺いすることも出来ます。

お祥月のお布施は一般的に5千円〜一万円ですので、宜しければ年に一度、

直近に亡くなられた方のお祥月参りをなさってみては如何でしょうか？

またお盆は慌ただしいので、棚経は辞めてお祥月に来て欲しい、というご依頼でも結構です。皆様のお申し込みをお待ちしています。

「日供講募集中止のお知らせ」

一昨年の春にご案内しました「日供講」ですが、皆様のご意見や昨今の社会状況を勘案した結果、募集を中止し企画を廃止することにしました。

ただ「2021（令和3）年国民生活基礎調査の概況」（厚生労働省）を見ると、高齢者世帯（六十五歳以上）の49.3%が独居、46.5%が夫婦のみですので、そうした方々の不安解消の一助に、お寺が成ればと考えるております。

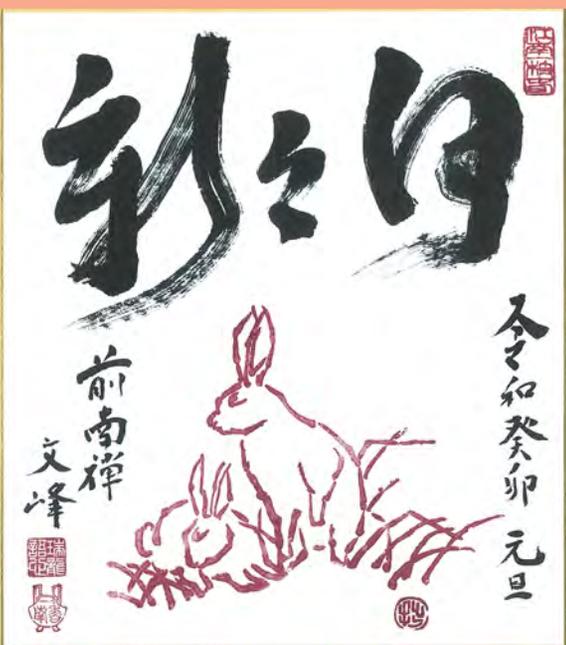
實相寺
花園會報

令和五年
一月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL.087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第165号

日々新（日々新なり）

読んで字の如くである。が、新しい価値観を受け入れるというのは容易なことではない。しかしいざ災難が湧き起こっても大病を患ったとしても、ありのままを素直に受け入れられるような人には、その逆風こそ向上進歩の礎となるものである。その心構えを雲門禅師は「日々是好日」であると自ら示されている。そういう心境となるためには、この世の苦楽を味わい尽くすという覚悟を持って日々過ごしていきたい。南禅寺派顧問 中村文峰老師



「認識する世界を広げる」

先日YouTubeの「日経テレビ東大」に実業家でチームラボ代表の猪子寿之氏が出演され、非常に興味深い話をされていたので要約してご紹介します。

猪子さんは「人間は認識している世界しか見ていない」と仰います。

例えば時間の連続性。一分前と今は連続しています。一時間前と今も、昨日と今日も、一年前も、十年前も時間は今と連続していると認識しています。では江戸時代はどうでしょう？江戸時代と今が連続していると俄には思えません。何故なら、人は自分が生きた時間だけの連続性を知っているからです。日本人は太平洋戦争で竹槍持つて戦おうとしたとか、江戸時代はちょんまげ結って切腹していたとか聞いても

私達に実感はなく、アニメなどと同じフィクションにしか聞こえません。

しかし例えばアンコールワット遺跡に行くとき、自分の知っている時間よりも長い時間が存在していて、今日まで連続していることを実感することがあります。それは自分の存在を超越した、膨大な時間の連続性を身体が知る瞬間です。そのとき人は自分を超越する存在に対して感動します。佐賀県御船山の「かみさまが住まう森」は少しでもそうした体験が出来ることを目指したアート作品です。

空間も連続しています。本来、地球と宇宙に明確な境界線はありません。また私達は宇宙のエネルギーで育った植物を食べて生きています。しかし「地球」と言語化した途端、宇宙から地球

が切り取られて、あたかも独立した存在のように認識され、無い筈の境界があるかのように思い込んでしまいます。

私達は、言葉によって世界をバラバラに切り取って認識するので、全てが連続しているにも関わらず、全てが独立して存在しているかのような勘違いをしてしまうのです。そうした認識は世界に分断を生み、この世界を味気ないつまらないものにしてしまいます。

しかし分断せず、全体を何らかの形で捉えるのが「文化」の役割ではないかと猪子氏は仰います。「連続していることそのものを美の対象とする」ことをテーマに作られたのが、東京お台場の「ボーダレス」や大阪長居植物園の「ボタニカルガーデン」です。

長居植物園は人工的に作られた広大

な森なので人間も生態系の一部です。メインの彫刻みたいな石版は周囲を鳥が飛ぶと、その空気の動きが映像で描かれる仕組みになっています。

よく人間は肉体と心で出来ていると思っているけれど、それは勘違いで、心と体と連続する環境によって自分という存在は成り立っています。それにも関わらず、私達は、自分の皮膚という物理的な肉体の境界面が自分の輪郭だと勘違いしているのです。しかし、生命の存在の輪郭というのは、連続する環境も含めたすぐ曖昧なものです。先の石版は鳥が飛んでくれないと何も映りません。ですので周囲には鳥の餌になる虫が集まる木を植えました。この作品の存在は木まで含むのです。



猪子さん動画